

ドイツ 軟着陸を模索



27日、パリの仏大統領府で、オランダ大統領(左)との会談を終えたEUのトゥスク大統領(AP)

英 EU離脱

【ブリュッセル】宮下日出男「英国の欧州連合(EU)離脱問題で、ドイツのメルケル首相が「軟着陸」を模索している。EUの一部では、英国に迅速な離脱通告を求めるなど、対英圧力が高まっているが、メルケル氏は拙速を警戒する。離脱問題への対応を議論するEU首脳会議を28日に控え、残る27加盟国の結束を

首相「短期的な争いしない」

「ブリュッセル」宮下日出男「英国の欧州連合(EU)離脱問題で、ドイツのメルケル首相が「軟着陸」を模索している。EUの一部では、英国に迅速な離脱通告を求めるなど、対英圧力が高まっているが、メルケル氏は拙速を警戒する。離脱問題への対応を議論するEU首脳会議を28日に控え、残る27加盟国の結束を

「英国はパートナーであり続ける。交渉はその精神で行う」。メルケル氏は25日、こう述べた上で、「短期的なことで争わない」と代も要求。ユンケル欧州委

「英国は「円満な離婚ではない」とも迫る。圧力の背景にあるのは、不安定な状況を早く解消し、EU懐疑派の台頭で離脱の動きが他国に飛び火するのを回避したいとの危機感だ。だが、こうした動きは他の加盟国の疑念も生んでい

る。エストニアは「27カ国の団結が優先」(イルベス大統領)とし、6カ国が先走るのを警戒。東欧には英国をせかすべきでないとの意見も強い。メルケル氏は対応を「27カ国で決める」とし、加盟国間に亀裂が入るのを避けたい考えだ。メルケル氏は、英国が「経済的に結びつき、安全保障も共にするパートナーだ」とも強調する。新興国の台頭やイスラム教スンニ派過激組織「イスラム国」(IS)などのテロ対応に英国の協力は不可欠であり、英

国とEUの良好な関係は米国も求めている。独側にはEUの信頼回復を急ぐ狙いからEU圏の統合を加速させる動きが強まれば、自国の財政負担につながる可能性もある。メルケル氏の周辺からは「英国に再考の時間を与えるべきだ」との声も上がる。離脱問題の着地点をどう描いているかは不明だが、英国の離脱通告先送り「解決策を探す時間ができて好都合」(独紙ヴェルト)との見方も出ている。(1面参照)

加盟国結束と両にらみ

私はこうみる

英、EU離脱



う。いずれも大英帝国の植民地を強化するであろう。中国は、米国のアジア・パシフィック戦略や中国封じ込めに対応する形で、EUとの連携を戦略的に深めようとしている。EUの不安定化や内部の分離主義が拡大してEUが分裂することを望んでいない。それは中国国内の少数民族の分離主義にも飛び火するからである。

英国の国民投票は、さまざまな意味で番狂わせであった。理性で考えれば、28カ国が加盟し、5億人を抱える欧州連合(EU)に英国がとどまるメリットは極めて大きかった。だが、英国民は離脱に流れた。大英帝国のプライドが、なぜEUという小国集団のいうことを聞かねばならぬのかと反発した結果であった。

英国が起死回生の道を取れるとしたら、それぞれ13億前後の市場を持つ、中国とインドへの接近と、6億を超える東南アジア諸国連合(ASEAN)の市場との連携である

た。中国は近年、EU、中からである。その意味で、EUが英国の独自路線に強硬な態度を取るようであれば、中英両国の蜜月にも影が差す可能性がある。二者択一となれば、中国は英国ではなく、経済的にも戦略的にもEUを取るからである。

米軍の縮小や撤退は、日本の安全保障をどうするかという根本的な問題を突きつけている。日本の政治外交戦略は今後、米英関係、英EU関係をにらみながら、再検討を迫らなければならない。英国は、自ら衰退に向けてパンドラの箱を開けてしまったように見える。

米軍の縮小や撤退は、日本の安全保障をどうするかという根本的な問題を突きつけている。日本の政治外交戦略は今後、米英関係、英EU関係をにらみながら、再検討を迫らなければならない。英国は、自ら衰退に向けてパンドラの箱を開けてしまったように見える。

中印に頼らざるを得ない

青山学院大学教授(国際政治) 羽場久美子氏

(寄稿)